

県指定文化財（有形・彫刻）

昭和33（1958）年4月23日指定
管理者 千葉県指定文化財蔵王権現保存会

もくぞう ざ おうごんげんさんそん りゅうぞう
木造蔵王権現三尊立像

奈良時代の山岳修行者で修験道の祖と呼ばれる役行者小角が、吉野の金峯山で修行中に衆生（いのちあるもの全て）救済を願い、神仏を呼び出そうとしたところ最初に釈迦如来、次に千手観音、弥勒菩薩が現れました。しかし、それに満足せずさらに強力な仏の出現を祈ると、最後に現れたのが蔵王権現であったといわれています。日本古来の神と仏教が結びつく神仏習合の思想に基づき、蔵王権現は仏・菩薩が衆生救済のために、権（かり）の姿で日本の神として現れるという「本地垂迹説」の考えから生まれた日本独自の神です。

天尊の蔵王権現の像高は96cmです。忿怒の形相が巧みに表現された重厚な秀作で、製作年代は平安時代後期までさかのぼると推定されます。両腕と両足は中世の後補と推定され、玉眼・光背・台座・宝冠などは近世の後補です。両脇侍の童子像の像高はどちらも58cmです。鎌倉時代の製作と推定され、落ち着きのある表情をしています。両像とも手首・台座などは後補です。3体ともヒノキ材の一本造で、内刳りを施しています。

この蔵王権現三尊立像は、前原新田が開墾された江戸時代の延宝年間（1670年代）に当地の草分けの一人上東野新助が、江戸神田の修験僧林光院積仙竜と共に前原に迎え、祀ったものと伝えられています。



※秘仏のため、見学はできません。

船橋市教育委員会